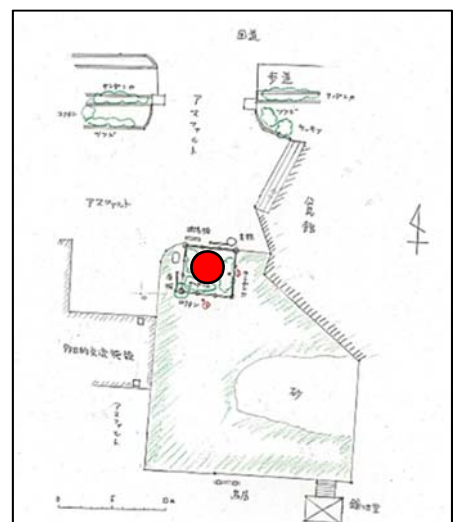


漢那のハスノハギリ



認定番号 42

樹種名	ハスノハギリ	科名	ハスノハギリ科	方言名	トウカナチ	学名	<i>Hemandia nymphaeaeifolia (Presl) Kubitzki</i>				
形状・寸法	樹高 7.9 m	胸高周囲 4.2 m	根本周囲 4.6 m	樹幹占有面積							
	枝下高 2.8 m	枝張 東 10.1 m 西 5.1 m	南 6.7 m 北 6.4 m	最大樹冠幅 157 m							
通称	漢那のハスノハギリ		樹齢 200 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
所在地	宜野座村字漢那1840			立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)						
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし				状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他					
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			土地傾斜	気象条件	(最寄りのアメダスデータ)					
土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:					地点:名護	月	1月	2月	3月	4月
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			2015年	平均気温(°C)	16.0	16.1	18.6	21.8	24.5	28.4
基岩・母材					降水量(mm)	23.0	34.5	54.5	107.5	218.0	95.5
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪 窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			潮風の影響	平均風速	3.9	3.4	4	3.6	3.3	4.2
	土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			風向	NW	S	SSW	SSW	S	S
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			年平均気温	23.1 °C		最高気温 33.9 °C			
管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ 0.8 m、材質(コンクリート) 柵内面積(19 m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他			周辺樹木の関係	年降水量	1595 mm		最低気温 7.7 °C			
	過去の治療歴と内容				日照条件	1 強い 2 普通 3 やや不良 4 不良					
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明			周辺樹木の状況	周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))					
	視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし					
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 アコウ、シマグワ、マツバラ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット			周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						

地上部の衰退度判定（認定番号42）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、シヨウが状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 2.00

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

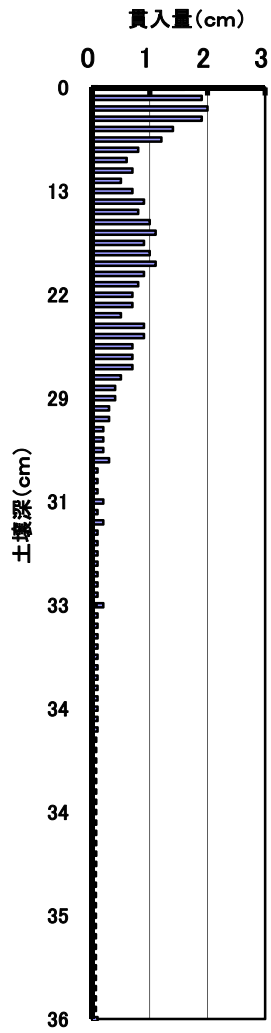
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他(支柱)	○			

土壤調査結果（認定番号 42）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5YR4/4	0-15	—	埴壤土	8.1	2.7
II	7.5YR4/6	15-24	—	埴壤土		
III	5YR4/6	24-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・土性は埴壤土で構造は粒状である。 ・深さは南側で30cm内外である。pHは8.1、ECは2.7(dS/m)。 ・北側は1m以上で30cm以深は砂土である。pHは8.1、ECは1.9(dS/m)。 ・表層はやや粘質であるが、影響はないと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・踏圧は認められない。 ・根元～幹の中部まで損傷が著しく部分的に枯死、再生を繰り返し、瘤状となり、奇形を呈する。 ・地際の東側と北側に、それぞれ縦50cm、横50cm、深さ50cm以上、縦40cm、横50cm、深さ17cmの腐朽部がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根の周辺の植物を除去したうえで腐朽の範囲、不定根の発生状況等、詳細な調査が必要と考える。なお、不定根は切らずに育成することが望ましい。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹上部に長さ1m、幅10cm程度の帯状の亀裂があり、内部は空洞となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な観察を検討し、落下する可能性がある場合は切除を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・下部に胴吹き枝の発生が著しく見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胴吹き枝は当面残すことが望ましい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・樹皮の捲れが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・大枝の活力は乏しく、先端付近の枯れが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中枝、小枝の落下が想定されるので、速やかに切除することが望ましい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・アコウ、シマグワ、マツバランが着生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アコウは速やかに駆除することが望ましい。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に波打ち、小型化している。台風時の潮風の影響で生じたものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な観察が必要と考える。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・明らかに樹勢の衰退が認められる。 ・葉の小型化、奇形化は根の障害に起因している可能性が考えられる。 	

